

岩手県中央家畜保健衛生所 試験調査レポート

平成21年度

分野:病態診断・**生化学**

家畜:**牛**

担当:佐藤千尋

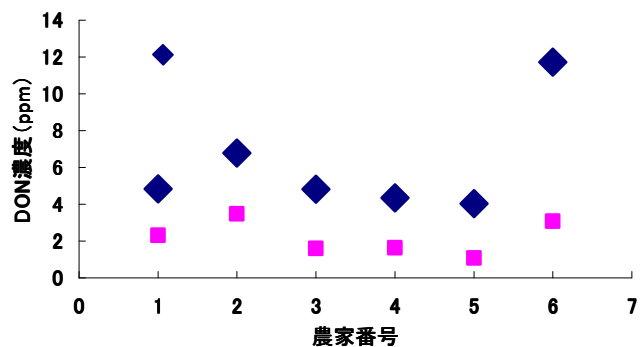
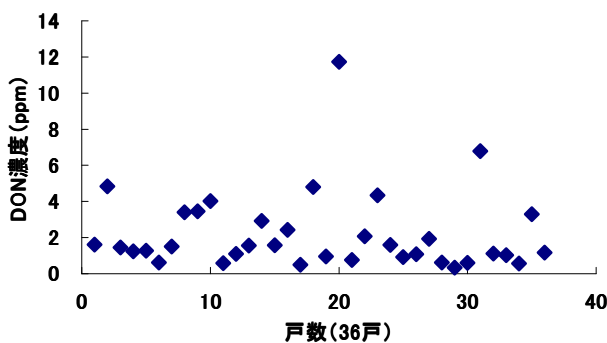
デオキシニバレノール[※]によるコーンサイレージの汚染実態調査

【 目的 】

国内自給粗飼料のマイコトキシン汚染実態は不明な点が多く、調査を実施した北海道や山形県では、コーンサイレージ(CS)から基準値(4ppm)を越す濃度のデオキシニバレノール(DON)が検出されています。そこで管内で生産されたCSのDON汚染実態を調査しました。

【 成績の概要 】

- 材料:1ロット3ヵ所以上から総数で約3kgを採取し1検体とし、2009年2月から5月の間に、36農場36検体のCSを採取しました。6農場については、CSの給与時期と給与量を併せて調査し、個体のDON摂取濃度も算出しました。
- 方法:平岡[れとると、28、15-31、2007]の方法により、蒸留水で抽出、多機能カートリッジカラムで精製後、市販ELISAキットで測定しました。
- 成績及びまとめ:36検体全てからDONが検出され(平均2.22ppm)、6検体(16.7%)が基準値の4ppm以上を示しました(図1)。基準値以上のDONが検出された6農場の個体あたりのDON摂取濃度は最大1.07~3.48ppmと算出されました(図2)。管内の圃場由来のCSがDONによって汚染されているものの、個体摂取濃度は基準値を超えていないことが明らかとなりました。



【 成績の活用 】

CSのマイコトキシン汚染を考慮した指導(適期の収穫と土壌混入防止に留意したCS調整、他の飼料との混合給与による個体のDON摂取濃度の低減)

【 留意事項・備考 】

※ デオキシニバレノール(DON)とは、麦の病気の一つである赤かび病の原因となるフザリウムという「かび」が作るかび毒です。豚、牛が摂取すると下痢などの消化器障害が見られます。